

全国農業教育新聞

4号

発行所
全国高等学校農場協会

東京都渋谷区
円山町2-20

民の希いは 繁栄の 歴史新たに おこるとき
進む技術の研鑽に 喜び集う 農場協会

第590号 平成30年3月31日
(年4回発行)

第54回 農業教育研究 協議会開催

平成29年11月30日(木)
から12月1日(金)

第一日(衆議院第二会館)

協議

- ① 農業教育の推進に向けた諸課題の改善要求
 - ② 実験実習費の調査
 - ③ 農業業基盤及び施設設備に関する調査
 - ④ 実習助手の実習教諭免許(単位) 修得に関する調査
 - ⑤ 国際規格・認証等戦略に関する調査
 - ⑥ 生徒の海外実習に関する調査
 - ⑦ 教員の海外農業研修に関する調査
 - ⑧ 各学科の教員配置数に関する調査
 - ⑨ 特殊勤務手当支給状況の調査
- 農業教育振興に関する協議・要求・要望
農林水産高校を応援する会議事

- ① 役員案の提示
- ② 全国農業高等学校及び全国高等学校農場協会より要望聴取
- ③ 産業教育振興法の改正案の説明と要望について
- ④ GAPの農業高校からの申請について

第二日(農場協会会館)

研究発表

- 一、食品系部会「食品化学実験における課題解決に向けての調査」
- 二、調査結果・実験技術の低下・実験器具の不足
- 三、環境系部会「環境学科に魅力ある取り組み事例に関する調査」
- 四、全国農業高校の特色ある取り組み報告

指導講評

国立教育政策研究所 教育部教育課程調査官
田畑 淳一

一、安全安心な農業教育の

展開

農業高校で農業生産工程管理(GAP)・危害分析重要管理点手法(HACCP)を標準的な学習として実施すること、農業の質を確保することが可能になる。

GAPとGAP認証を取る必要があるが、認証維持費用が高額であるため多くの学校が現在考えている状況である。しかしながら農業教育ではGAP認証を取らなくても、GAPについて教える必要がある。特に、GAPに準ずる認証条件を教え、実施、維持することで作物商品価値の向上、生産者の安全性の向上が図られる。また、GAPを知ることによって就農後に食品安全について厳しく考え、価値を生む手段として実施するようになるので、全ての農業科目において教え実施することが望ましい。同様に危害分析重要管理点手法(HACCP)を教

育する必要がある。二、農業教育に関する諸問

題

農業工学技術の進歩、生命科学の進歩、コンピュータの進歩、AIの発展により農業が今まで以上のスピードで発展している。その問題として三点上げられる。

① 生徒について

少子化・非農家の増加・学力の定着・キャリア教育の充実・就農者育成が生徒の課題となっている。

② 教職員について

年齢構成の歪み、資質向上、指導力不足、技術の伝承、業務の多忙感、新技術の対応不足などが課題である。

③ 施設について

施設の老朽化、新しい施設園芸の整備、新技術の導入、がなされていないために時代に取残されているのが課題である。

三、日本の農業教育を次のステージへ

生徒のため、地域のため、未来のため農業教育が果たすべき役割とは「進化、深

化・真価」である。

四、日本の農業をどう考える。「農業教育を次のステージへ」

農業教員全員で次の三点を考える。

- 一 育成すべき人物像（資質・能力）
- 二 学校から地域へ、地域から学校へ（都道府県市町村等の連携・大学連携・農業経営者等の連携・地域資源の有効活用）
- 三 農業教育を多様な教育への展開

講演

「GAPを取り巻く状況と当面の展開について」

農林水産省
生産局農業環境対策課
課長補佐 (GAP担当)

宮地 修平

- 一 GAPとは何か
- ① GAPの意義
- ② GAP実施の意義
- ③ 国内における様々なGAP・ASTANGAP

二 持続可能性確保に向けた国際水準GAPの活用

① 求められる持続可能性への対応（費用等）

② 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会における持続可能性への配慮

三 GAPをめぐる動き

- ① 国内の食品製造・小売事業者等の動き
- ② GAPの価値を共用するフードチェーン連携パートナー会
- 四 GAPの取り組み・認証取得拡大に向けた取り組み

全国農業高等学校長協会・全国高等学校農場協会からの情勢報告

情勢報告

アンケート調査時期の変更
更 八月下旬までの提出から六月下旬までの提出に変更する。変更理由は調査提出の時期が地域によって遅れるため。

研究協議会

- ① 平成29年度大学推薦入学に関する調査について報告
- ② 教育課程における調査
- ③ 農業関係高校における特色ある取り組みの報告

事業予定

第55回農業教育研究協議会
平成30年12月6日・12月7日

全国の農業高校の新戦略の設定

第三次アクションプラン

平成29年度より「我が国の未来を担う人材を育て地域で活躍させる」ための行動計画を策定し、農業高校の持つ価値と役割を見つめ農業高校特有の強み（コア・コンピタンス）として「世界規模で考え、足元から行動する学校」であるとして「グローバルアグリハイスクール宣言」を行いました。これからの時代の農業高校の取り組みはますます「深

化」させ、新しい時代に対応すべく「進化」をとげ、我が国の発展と生徒の生きる力を育む「真価」を發揮していきます。

五つの基本方針

- 農業高校のミッション
- 一 グローバル教育で人材を育てる学校
- 一 地域社会・産業に寄与する学校
- 一 地域交流の拠点となる学校
- 一 地域防災を推進する学校
- 一 地球環境を守り創造する学校
- 10の行動計画
- 一 「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる教育」を行います。
- 二 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。
- 三 「地域農業の生産を支える教育」を行います。
- 四 「地域の農業関連産業や六次産業化に寄与する教育」を行います。
- 五 「地域環境を守り創造する教育」を行います。
- 六 「食農」教育を推進します。

七 「地球資源を活用する教育」を行います。

八 「地域交流の拠点となる教育」を行います。

九 「各種農業関係機関・団体と連携した教育」を行います。

十 「地域防災を推進する教育」を行います。

新学習指導要領(平成34年)に合わせて実施・検証し第4次プランの策定を行う。実施期間平成29年4月より5年間実施

「食」「環境」「人」の分野のプロフェッショナルを育成します

- 環境園芸学部 環境園芸学科
- 人間発達学部 子ども教育学科
- 健康栄養学部 管理栄養学科
- 食品開発科学科



南九州大学
MINAMI KYUSHU UNIVERSITY

0120-3739-20

南九州大学 検索

http://www.nankyudai.ac.jp